



取扱説明書

VOYAGE i20

V1.1

Integrated Amplifier

WWW.CREEKAUDIO.COM

クリークオーディオ Voyage i20 インテグレイテッドアンプを購入していただきありがとうございます。現在、最先端のオーディオ製品を所有しています。このインテグレイテッドアンプの機能および操作は、シンプルで直感的に設計されています。このユーザーマニュアルは、その操作と使用のすべてを説明することを目的としています。

ユーザーマニュアルは、Voyage i20 を「アンプ、アンプリファイアーまたは i20」と呼ぶかもしれません。このマニュアルの最新バージョンについては、www.creekaudio.com を確認してください。Voyage i20 products ページに移動し、Instructions のマークが付いたタブをクリックします。

UNPACKING AND LOCATING THE AMPLIFIER - アンプの開梱と配置

アンプを開梱する際は、将来の使用のために包装材料を取り置きください。カートンの中には、使用国の商用電源に接続できる電源コードがあります。また、リモートコントロールとバッテリー、ブルーツルースのアンテナもあります。

MAINS CONNECTION - 主電源の供給

IMPORTANT 重要:

アンプは、お使いの地域に適した電源電圧に工場出荷時に設定されています。2つの電圧オプションは115Vまたは230Vです。115Vに内部設定されている場合、アンプに230Vが入力されるとダメージが発生する場合があります。

Voyage i20は、180Vから260V、または90Vから130V 50Hzまたは60Hzの幅広い入力電圧で正常に動作することができます。アンプは、お住まいの地域または国のメインソケットに一致するように3コアの電源コードが付属しています。もし疑わしい場合は、オーディオ販売店か輸入業者にご相談ください。

正しい操作と安全のために、アンプのアースを取る必要があります。供給された電源コードが使用され場合、これは自動的に起こるはずですが、グラウンドアースのループやグラウンドアースの無いテーブルタップは使用しないでください。

主電源ヒューズはアンプの内部に設置されています。これは、ユーザーのサービスで可能な部分ではありません。カートリッジヒューズはT10AL 250V (10 Amp、タイムラグ、またはアンチサージ、電圧250V、サイズ= 5mm x 20mm) の規格です。ヒューズはアンプの最大電力要件を満たすために選択されており、保証を無効にし、危険である可能性がありますので、何らかの理由で別の値やタイプに置き換えるべきではありません。アンプが動作せず、主電源ヒューズが吹き飛んだ場合、オーディオ販売店か、輸入業者に相談するか、疑問がある場合は info@creekaudio.com に問い合わせ、アドバイスを求めてください。

QUICK SET-UP - クイックセットアップ

経験豊富なオーディオマニアにとっては、Voyage i20は非常に簡単で直感的なインテグレイテッドアンプです。セットアップをすばやく行うために、次の手順をお読みください。

アンプを安定した平らな面に置き、背面の端子に簡単にアクセスできて、前面でコントロールが出来る様にします。ケースの上部と下部の換気スロットが、ブロックされないようにしてください。

付属のメインケーブル(コード)を背面パネルのIECソケットに差し込みます。最も近い壁ソケットまたは良質のオーディオ用開発された延長タップにメインプラグを差し込みます。

各スピーカーのスピーカーケーブルをアンプ背面のバインドポストに接続します。スピーカーケーブルが4mmバナナプラグまたはスペードラグで終端処理がされていることを確認してください。個々のワイヤがほつれ、端子間のショートを引き起こす可能性がありますので、裸のワイヤはお勧めできません。4つのアナログ入力には、インターコネクトケーブルを使用して、ストリーマー/DAC や Voyage CD /DAC などのアナログ信号を接続します。または、コンピューター、ラップトップ、音楽ストリーマー、テレビなどのデジタル信号は、5つのデジタル入力のいずれかに接続します。入力信号の製品の電源を入れ、アナログまたはデジタル入力を介してアンプに音楽をストリーミングまたは再生する準備をします。バックパネルの電源スイッチを1(ON)側に押して、アンプをオンにします。スタンバイ記号がディスプレイ画面に点灯します。

FRONT PANEL CONTROLS - フロントパネル操作

スタンバイからアンプを起動させるために、左または右のコントロールノブを短く押します。右側のコントロールノブを回して音量を調節します。左側のノブは入力とメニューを選択します。それを左または右に回転させて希望の入力を選択するか、押してメニューにアクセスし、ノブを回転させて異なるオプションを選択します。ノブをもう一度押してメニューオプションを入力します。入力ノブを2秒間押し続けられれば、手動でスタンバイモードに入ります。30分以上、アンプが動いていない(信号が増幅されていない)場合、自動的にスタンバイモードが入ります。

REMOTE CONTROL - リモコン操作

リモコンの操作はボタンの表記通りですが、一部の機能では詳細な説明が必要な場合があります。

ADVANCED SET-UP - セットアップの開始

PLACEMENT - 設置方法

アンプを安定した平らな面に設置するには、専用のオーディオ用ラックまたはテーブルの上に置き、良質な電源を供給します。他の機器の上部にアンプを置くのは絶対に避け、より良い、別の棚に置きます。使用時に熱くなりすぎてスイッチオフになり、オーバーヒートのメッセージが表示される可能性があるため、スタックされた機器の一番下には置かないでください。この場合は、アンプは換気の良い別の位置に移動してください。カップボードの内側や中央の棚にアンプを置くことも、そのフルパワー能力を制限することになります。

VENTILATION - 換気

アンプを冷却するためには、良好な換気を提供することが重要です。アンプの性能をフルに発揮する為にも、エアフローはケースの上下のスロットだけを対象にしてはなりません。

POWERING THE AMPLIFIER - アンプの電源供給

背面パネルの3ピンIECメインソケットに、電源ケーブル(電源コード)を差し込みます。3ピンのメインプラグのもう一方の端のプラグを、最も近い壁のソケットまたは良質の延長コードのソケットに差し込みます。1つのソケットでのタコ足配線は絶対にしないでください。常に主電源のソケットを通してアンプを接地します。

主電源のオン/オフスイッチは、背面パネルの主電源の入力ソケットの上にあります。スイッチは 0 と 1 とマークされます。アンプの電源を入れるには、電源スイッチを押して位置1にします。Creekのロゴがディスプレイに点灯し、アンプのスタンバイ状態が表示されます。パワーアップするには、アンプのフロントパネルのコントロールノブを押します。

アンプをリモートでパワーアップするには、リモコンの青いAMPボタン、またはスピーカーXのマークが付いた青いミュートボタンを押します。ミュートボタンにはデュアル機能があります。信号のミュートは、短い単押しが必要です。スタンバイに入るか、またはスタンバイを離れるには、より長い押しが必要です。

FRONT PANEL CONTROLS - フロントパネル操作

2つの大きいロータリートグルスイッチノブで、アンプの全ての機能をコントロールします。

VOLUME, BALANCE AND MUTE - ボリューム、バランスとミュート

右側のコントロールノブを回して、1dB(1デシベル)ステップで音量を調整します。0dBは最大音量で、-80dBが最小設定、つまりミュートです。ノブを押したまま、左右に回してバランスを調整します。

NOTE - 注釈

音量コントロールが -9dB から 0dB（音量が大きい）に設定され、ミュートされている場合、ミュート解除すると、レベルは自動的に -10dB に縮小されます。電源を切った後も、すべての設定は記憶されます。

Voyage i20 ボリュームコントロールからの最大減衰は-80dB です。ボリュームノブをさらに1クリックすると、出力は完全にミュートされます。

アンプの出力は、ボリューム設定と入力機器からの入力信号レベルの両方の積であることに注意することが重要です。出力信号が小さいソースは、必要なLOUDネスに達するためにVoyage i20の音量設定が高くなるように要求します。音量が好みのリスニングレベルを達成するために0dBに近づいていることを発見しても心配しないでください、それは必ずしもアンプがあまりにも懸命に働いているか、その完全な能力を提供することを意味するものではありません。

現在のボリューム設定は電源オフ時に保存されますが、Voyage i20 がオンに戻る際は、値は -20dB の最大レベルに制限されます。

MUTE - ミュート

音量ノブは、一度押すと出力をミュートし、もう一度押すとミュートが解除されます。

LEFT HAND CONTROL KNOB - 左側の操作ノブ

左側のコントロールノブは、通常、いずれかの方向に回転するとプリアンプ入力を選択します。ノブを 1 回押して [MENU]オプションを入力します。

DISPLAY SETTINGS - ディスプレイの設定

1. [Always ON]を選択すると、表示がオフになることはありません。

2. 数秒後に表示を消すには、[Always OFF]を選択します。

アンプ上のリモコンボタンやコントロールノブがタッチまたは移動された場合、ディスプレイはすぐに数秒間再び点灯します。

DISPLAY BRIGHTNESS - ディスプレイの明るさ

Menuノブを押してメニューを表示します。[Display Brightness]を選択し、もう一度押して、[Low]、[Medium]、または[Full]を選択します。または、リモコンの DIM キーを押して、[Low]、[Medium]、または [Full] を選択します。この機能は、他の複数の機能と同様に、まずリモコンで先にAMPを選択する必要があります。

PCM DIGITAL FILTERS - PCMデジタルフィルター

Menuを押して、6つのPCMフィルタオプションを入力します。

選択 - 1. Short Sharp, 2. Short Slow, 3. Sharp, 4. Slow, 5. Super Slow or 6. Natural. 数秒間放置して選択を確定します。

リモコンの場合は、黄色の [Filter] ボタンを押して、フィルタ オプションをスクロールします。

DSD DIGITAL FILTERS - DSDデジタルフィルター

Menuノブを押してDSDフィルタを選択します。[Normal] または [Wide] を選択します。数秒間待って、選択を確定します。リモコンでは、DSDフィルタを制御できません。

Display info: - 情報の表示:

Menuノブを押して[Display Info.]を選択します。

Mod: Voyage i20

Software: v1.xx

Heat sink: ヒートシンクの温度を°Cで表示。

任意のコントロールを押すか、またはターンしてこのメニューを終了します。

HEADPHONE SWITCH - ヘッドフォンスイッチ

Menuノブを押してヘッドフォンスイッチを選択し、もう一度押してスピーカーを無効にする[Disable Speakers]または同時使用[Simultaneous Use]を選択します。

DISABLE SPEAKERS - スピーカーを無効

ステレオヘッドフォンジャックをディスプレイウィンドウの6.35mm(1/4インチ)ソケットに差し込む操作で、スピーカー出力をミュートします。

SIMULTANEOUS USE - 同時使用

ヘッドフォンとスピーカーを一緒に再生できます。ヘッドフォンを接続すると、ディスプレイ画面の左下隅にヘッドフォンのシンボルが表示されます。

AUTO STANDBY - 自動スタンバイ

EU ECO規制に準拠するために、Voyage i20は30分以上の信号増幅をしない場合は、自動的にスタンバイ、低電力モードに入ります。

自動スタンバイのメニューオプションでは、30分、1時間、2時間、またはオフにすることもできます。

REMOTE CONTROL - リモコン

リモコンの操作はボタンの表記通りですが、一部の機能では詳細な説明が必要です。上部の青色のスピーカーミュートボタンには2つの機能があります。ボタンを一度押して、出力をミュートまたはミュート解除します。MUTE ボタンを2秒間押し続けて、アンプをスタンバイから解除するか、スタンバイ モードを設定するかを切り替えます。

リモコンの右側にある青い音量アップ+/ダウンボタン-は、レベルを調整し、中央の青いLまたはRボタンを調整してバランスを調整します。リモコンが複数の製品を管理できるため、以前にリモコンを使用して Voyage CD の操作をしている場合は、最初に上部にある青色の AMP ボタンを押し、Voyage i20アンプを選択する必要があります。

DISPLAY - ディスプレイ

フロントパネル中央の OLED グラフィックディスプレイにアンプのステータスが表示されます。電源を入れると最初に、クリークのロゴが数秒間表示されます。この期間中のみ、セットアップ メニューが利用可能です。詳細については、SETUP を参照してください。ディスプレイの表示が、選択した入力と音量設定の表示に変わると、アンプが使用できます。選択した入力および出力リレーをミュートから解除する、内部のリレーからのクリック音がします。

ANALOGUE INPUT CONNECTIONS - アナログ入力の接続

入力 1、2、および 3 は、アンバランスのアナログオーディオ信号に提供。

- Input 1 RCAソケットのラインレベル入力で、フルパワーに対して約650mVの信号感度を持つ。
他のライン入力とは異なり、Line 1 は、Sequel mk4 フォノプリアンプをインストールすることで、
フォノ入力として設定することもできます。
- Input 2 RCAソケットのラインレベル入力。
- Input 3 RCAソケットのラインレベル入力。
赤いマーカーは右チャンネルを示し、白は左チャンネルを示します。
- Input 4 XLRプラグによる、バランスのラインレベル入力。
右と左のチャンネル表示は、各 XLR ソケットの上に印刷されています。
- Sequel mk4 このオプションの MM フォノプリアンプは、リンク PCB を交換して、Voyage i20 のプリアンプセクションに差し込みます。

インストールについては、info@creekaudio.com または販売店にお問い合わせください。さらに販売店でインストールをお願いします。またクリークオーディオは、低出力のMCカートリッジには、他社のフォノプリアンプの使用をお勧めします。

DIGITAL INPUT CONNECTIONS - デジタル入力の接続

- USB オーディオ クラス 2 オーディオ USB タイプ A オスを介して、USB タイプ B オスケーブルをお勧めします。Voyage i20 の DAC は、最大 32 ビット、384kHz、DSD 音楽ファイルを最大 22.4MHz の PCM 信号で動作させることができます。
- 同軸 1 & 2 SPDIF 信号の最大解像度は 24 ビット 192 kHz です。金めっき RCA ソケットは、内部でガルバニック絶縁トランスを介して DAC に接続します。最良の結果を得るためには、良質の 75Ω シールドケーブルを使用してください。詳しくは、販売店またはクリークオーディオにお問い合わせください。
- 光 1 & 2 SPDIF-TOSLINK 光ソケット。最大解像度 = 24 ビット 192kHz。光ケーブルは、その性質上、グラウンドが分離されており、様々な長さのクオリティーがあります。詳細については、販売店またはクリークオーディオにお問い合わせください。
- ブルーツース コメント BT aptX HDブルーツースモジュールは、AACまたはaptX HDコーディングで記録されたデジタル信号をストリーミングするために内蔵されています。壁や他の仕切りにより伝播する範囲が制限されます。

11cm のアンテナをリアパネルのソケットにねじ込み、曲げて縦に立ちます。BlueT を選択します。アンプの入力。スマートフォン、タブレット、またはコンピューターの [設定] に移動し、Creek Audio BT がリストに表示されたら、それを選択して、音楽アプリケーションに戻ります。あなたの選択した音楽の再生に進みます。必要に応じて、自動的にしない場合は、ターゲットとして Creek Audio BT を選択します。アンプに音楽をストリーミングする場合、アプリケーションにボリュームコントロールがあるかどうかを確認します。最良の結果を得るために、最高の音質(最低信号デシメーション)を提供するために、アプリの音量を最大に設定します。それが出来ない場合は、アンプ上で最大音量の設定を使用してください。その後、アプリのレベルを調整します。

クアルコム®aptX™HD は、クアルコムテクノロジーズ株式会社およびその子会社の製品です。

PRE-AMP OUTPUT - プリアンプ出力

アンプへのアナログまたはデジタル信号入力は、プリアンプ出力 RCA ソケットを介して自動的に出力され、パワーアンプなどの別のデバイスに接続することができます。プリアンプの出力レベルは、ボリュームとバランスによって調整する必要があります。

GAIN - ゲイン

増幅率またはボリュームレベルを意味し、dB(デシベル)で計算されます。0 dB は最大で、- 80 dB は最小です。例: + 6 dB 例: + 6dB はレベルの 2 倍(x2) です。- 6dB はレベルの半分(50%低い)です。

表示画面に示すように、ボリュームコントロールが最大出力レベルまで時計回りに回された場合、プリアンプゲインは 0 dB(x1)である。最大減衰または最小信号レベルである - 80 dB に達するまで、ボリュームコントロールが反時計回りに回された場合。もう一度反時計回りにクリックすると、出力がミュートされます。

ボリュームレベルは、0 dB から - 50dB までの 1 dB ステップで調整できます。

- 50dB から - 80dB までは 3 dB ステップでのみ調整できます。

パワーアンプ回路の全体ゲインは + 33.4dB、x 47 増幅係数です。

つまり、定常 100mV (0.1V) の正弦波信号が 0 dB (最大) に設定されたボリュームで入力されると、出力電圧は (0.1 x 47) 4.7V RMS になります。

8Ω の負荷で、最大 120 ワットの最大出力レベルに到達するには、または 4Ω の 240 ワットに到達するには、659mV (0.659V) の入力信号レベルが必要です。ボリュームコントロールは、入力信号を減衰させるだけで、増幅できません。したがって、ボリュームコントロールを - 6dB に設定すると入力レベルが半分に減少するため、アンプは 8 Ω で 60W を、4 Ω で 120W を出力することしかできません。

あなたの入力ソースが低い信号レベルの場合、アンプが十分に大きく聞こえるようにするために、より少ない減衰が必要になります。したがって、0 dB は常にすべての状況で十分であるとは限りません。したがって、Voyage i20 は、便利なプリアンプゲインのオプションが設計されています。より大きな感度が必要な場合、プリアンプゲインは 4 つのアナログ入力のいずれか、または全で 4 つのステップで増加させることができます。

参照: セットアップメニュー (MENU) のアナログ入力 (ANALOGUE INPUTS) の構成

USB from PC using Win10+ - Window 10 PCからUSB入力

PC、ラップトップ、またはネットワークデバイスのスぺアポートからアンプ背面の USB ポートに、良質なプリンターケーブルを使用して、USB タイプ A オスから USB タイプ B オスに差し込みます。Voyage i20 USB 入力が動作しない場合を避けるため、5 メートルを超えるケーブルの使用は避けてください。

接続すると最初に、コンピューターがインターネットに接続されている場合は、コンピューターは外部のサウンドカードとして Voyage USB Audio 2.0 デバイスを検出し、ドライバーを検索しているフラグを表示します。Voyage USB Audio 2.0 が検出されると、自動的に設定ページに移動します。Windows 10 OS を実行している場合、> 24-bit 192kHz 高解像度再生用の ASIO ドライバーは必要ありません。そのため、Windows 10 より古い OS を使用することはお勧めできません。

または、USB 出力付きのストリーミングまたはネットワークオーディオを使用して、上記のように接続し、スマートフォンやタブレットのリモートコントロールアプリを用いてトラックの選択を操作します。

USB input from Apple iOS - Apple iOSからUSB入力

コンピューターのスเปアポートからアンプの後部にある USB ソケットに、良質のプリンターケーブルを使用して、USB A オスから USB B オスを差し込みます。Voyage i20 USB 入力が動作しない場合があるので、5 メートルを超えるケーブルの使用は避けてください。

[Sound] 設定に移動します。Voyage USB Audio 2.0 は、任意の内蔵スピーカーと一緒に、リストに表示されます。Voyage USB 2.0 を選択すると、この出力に音を送られます。また、選択したデバイスに出力コントロールが含まれているのがあるかもしれませんが、信号を減衰させず、アンプの音量コントロールを使用する必要があります。

デスクトップの音楽アプリやネットワークストレージに移動し、通常どおり音楽を再生します。出力を Voyage USB オーディオ 2.0 は、デジタルオーディオ信号をアナログに変換します。通常どおりアンプのボリュームで音量を操作します。

または、USB 出力付きのストリーミングまたはネットワークオーディオを使用して、上記のように接続し、スマートフォンやタブレットのリモートコントロールアプリからトラックの選択を操作します。

CONFIGURING ANALOGUE INPUTS in the SETUP MENU - セットアップメニューでのアナログ入力の設定

セットアップメニューに入るために、どちらかのノブを 1 回押して、Voyage i20 をスタンバイモードからパワーアップします。クリークロゴが表示されたら、すぐに左のノブを押しただままにして、ディスプレイに[Setup]メニューが表示されるまで押します。通常の表示画面が表示される前に、この操作を行わないと、セットアップメニューが表示されません。

セットアップメニューには、次のプリアンプゲインオプションがあります：

0dB, +3dB, +6dB, +9dB, +12dBとPower amp Direct.

例: Line 1 に 0 dB、Line 2 に + 3 dB、Line 3 に + 9 dB、Line 4 に + 12dB を必要とする場合は、メニュー設定で簡単に変更できます。必要な値を選択し、ボリュームノブを押して、これらの設定でアンプをスタートするか、次の入力に移動してゲインを調整します

Pre-amp bypass / Power Amp Direct - プリアンプバイパス/パワーアンプダイレクト

4つのライン入力のいずれかを、プリアンプをバイパスしてパワーアンプダイレクト入力になるように設定できます。これはホームシアターバイパスに特に便利です。ただし、セットアップメニューで実行できます。Input 1 に Sequel mk4 フォノモジュールが取り付けられている場合、パワーアンプダイレクトには使用できません。

VINYL DISC INPUT – LPレコード入力

LPレコードを聴くためには、フォノプリアンプを追加する必要があります。これには、クリークの Sequel mk4 と呼ばれる専用のプリアンプをプラグインすることができます。

Sequel mk4 フォノプリアンプは、内部の PCB 上のソケットに差し込み、入力の Line 1 を再構成する PCB モジュールです。入力の Line 1 を選択すると、自動的にディスプレイには Phono が表示されます。

クリークオーディオでは、アナログのライン入力に外部接続することができる、OBH-8mk2 フォノプリアンプを提供しています。

入力 Line 1 とスピーカー端子の間にあるスクリー端子は、ターンテーブルのトーンアームを接地するためのシャーシのアースポストです。これによって、潜在的なハムのブーンと言うノイズを排除することができます。ほとんどのトーンアームは、アンプのシャーシアースに接続するための別のワイヤを備えておりますので、信号グラウンドには接続しないでください。しかし、REGA RESEARCH のような例外がありますので、疑わしい場合は販売店に確認してください。

LOUDSPEAKER CONNECTION – スピーカーの接続

スピーカーには、高品質の低い抵抗値のスピーカーケーブルを使用して接続する必要があります。必要に応じて、販売店に相談してください。バックパネルのアンプのスピーカー端子は、4mm バナナプラグ、スパードラグ、または裸のワイヤでの接続が可能です。スパードラグの端末処理が施されたスピーカーケーブルを取り付けた後に、端子をしっかりと締め付けて、良好な接続を行います。使用中は、ケーブルやコネクタをショートさせないようにします。不明な場合は、販売店に相談してください。

左右のチャンネルを基準に正しい位相で、スピーカーケーブルをスピーカーに接続します。スピーカーケーブルは、通常、これを強調するために、側面に赤い線のプラス(+)または黒い線のマイナス(-)の書き込みがされています。スピーカーケーブルの赤い端子のプラス(+)をアンプの赤いターミナルに接続し、同様に、スピーカーケーブルの黒い端子のマイナス(-)をアンプの黒いターミナルに接続します。両方のチャンネルが同じ相対極性で接続されていない場合、ステレオ信号は「位相外」になり、ステレオイメージが悪く低音が失われます。

アンプの電源が入っているときに、スピーカーケーブルをショートしないことが重要です。ショート(過電流)保護回路は損傷を防ぎますが、可能であれば避ける方が良いです。スピーカーを接続する際に、端子がワイヤでショートされていないことを確認し、アンプの電源を切ったりスタンバイモードで接続したりします。スピーカーの位置を変更または移動する必要がある場合は、まずアンプをオフにして、再度電源を入れる前に、スピーカー配線を再確認してください。

REMOTE CONTROL – リモコン操作

リモコンで赤外線信号を介してリモートでアンプを操作することが可能です。最高のパフォーマンスを得るには、リモコンをフロントパネルに向ける必要があります。操作範囲は約 7 メートル、または 23 フィートに制限されています。クリークのリモコンは、操作に直感的に設計されています。ただし、場合によっては、まずリモコンの上部にある適切な色のボタンを押して、AMP(ブルー)、CD/DAC(ブラック)を選択する必要があります。

注意 - リモコンはユニバーサルであり、他のクリーク製品で使用されていると、すべてのボタンや機能は、Voyage のために動作しません。

クリークのリモコンは、標準的なフィリップス RC5 タイプのリモートコントロールコードを送信しています。

Voyage のリモコンでは、Evolution 50 / 100A と CD、Destiny 1 と 2 とか、いくつかの他の古いモデルのクリーク製品も操作する事ができます。疑問がある場合は、info@creekaudio.com に問い合わせてください。

RC BUS-REMOTE CONTROL SENSOR EXTENDER - RCバス-リモートコントロールセンサーエクステンダー

アンプにはリモコンの受信部の延長コードが提供されています。フロントパネルを見えない様にする場合、センサーヘッドが見える場所に置き、アンプを隠します。延長コードのジャックは、RC バスの IN とマークされた背面パネルのソケットに差し込み。RC バスの OUT ソケットからは、アンプと一致する Voyage CD に

チェーンリンクし、2 つの製品を同期させ、1 つのリモートセンサーだけで 2 つの製品を操作し、1 つがオン、もう 1 つがオフになる可能性を防ぎます。疑問がある場合は、info@creekaudio.com に問い合わせてください。

HEADPHONES – ヘッドフォン

ほとんどのタイプのヘッドフォン(比較的到低インピーダンスから高いインピーダンスまで)を、高品質のヘッドフォンアンプを通じて Voyage i20 で楽しむことができます。音量は、通常どおり左手のコントロールノブで制御します。6.35mm (1/4 インチ) ソケットは、ディスプレイウィンドウの左端にあります。

Voyage i20 は、プリアンプ回路にほとんどのタイプのヘッドフォンを駆動できる専用のヘッドフォンアンプを備えています。ゲインまたはラウドネスは、ヘッドフォンの負荷インピーダンスに比例します。低インピーダンスヘッドホンには、特定の音量設定で高インピーダンスタイプよりも大きくなります。音量コントロールを使用して好みのレベルを設定し、ヘッドフォンにもスピーカーと同じルールが適用されることを覚えておいてください。

警告: 高音圧レベルで長時間聴くと、永久的な聴覚障害を引き起こす可能性があります。

PROTECTION MECHANISMS – 保護回路

アンプは、3 種類の潜在的な故障から自身または負荷を保護します。

1. オーバーヒート
2. 過電流またはショート。
3. DC オフセット。

アンプは、それ自体またはスピーカーへの損傷を避けるために、これらの条件のいずれかでスピーカーへの出力を分離します。障害の状態がディスプレイに表示されます。スピーカーリレーは、短い遅延の後、障害がクリアされた場合にのみ出力を再接続します。

Over-temperature - オーバーヒート

ほとんどのアンプと同様に、Voyage i20 は良い換気が必要です。同じようなパワー能力を持つ従来のアンプよりも低い温度で動作するように設計されていますが、内部の金属ヒートシンクを冷却するための明確な空気の流れが必要です。ケースの上部と下部の換気スロットは、障害物から離れている必要があります。これは、空気の流れと熱の拡散を制限するので、アンプの上に他の機器を配置しないようにすることが重要です。

すぐにディスプレイは、自動的にスピーカーの出力をミュートする「Overheating」メッセージを示します。温度が許容レベルに下がると、出力はリセットされます。このようなことが再び起こらないようにするには、アンプが食器棚の中に置かれていなく、その上にスペースを持つ棚か、または他の機器の下に置かれていないことを確認してください。また、アンプが低いインピーダンスのスピーカー(4 Ω 未満)を長時間に渡り高いレベルで駆動し、温度が事前設定された 90°C を超えて上昇した結果である可能性もあります。

内部温度を監視できます。左のつまみを押してから、もう一度押して[Display Info]を選択します。ディスプレイには、ヒートシンク温度が°Cで表示されます。右側のコントロールノブを回して[Display Info]を終了します。

OVER-CURRENT - 過電流

Voyage i20 アンプを、非常に低いインピーダンスのスピーカーに接続し、高いレベルで駆動した場合、または誤って出力端子やスピーカーケーブルをショートした場合、Voyage i20 は各チャンネルの出力を切断してすぐに自分自身を保護します。このような事態を避けるため、スピーカーケーブルをアンプに接続して信号を増幅しないでください。負荷が低すぎてレベルが高すぎる場合は、ボリュームを低いレベルに減らします。障害がクリアされると、アンプは再び正常に動作します。それがうまくいかない場合は、アンプのスイッチを切り、スピーカーの配線にショートがないか確認してください。

DC OFFSET - DCオフセット

直流電圧はスピーカーのコイルを前後に押し出します。不要な DC がすぐに取り外されない場合、スピーカーを損傷する可能性があります。したがって、これは自動的にアンプの保護回路によって防止されます。「DC presence」警告が表示された場合は、数秒後に信号が戻るまで音量レベルを下げてみてください。ボリュームが -80dB に縮小またはミュートされた場合、内部の障害によって引き起された可能性があります。販売店または info@creekaudio.com に問い合わせてください。

CAUTION - 警告

音が歪む程の音圧レベルでアンプを駆動しないでください。歪は、アンプまたは大音量のスピーカーが設計限界を超えて押されていることを表し、スピーカーに永久的な損傷を与える可能性があることを示しています。警告: 数分間以上に渡る 105dB を超える音圧レベルの再生は、人間の聴覚に有害です。耳鳴りや永久的な聴覚障害が発生する可能性があります。

POWER CONSUMPTION - 消費電力

オーディオマニアの間では、機器の電源を継続的にオンのままにすることで、パフォーマンスを向上させることができると評価されています。しかし、連続的な電力消費を犠牲にして行う、最初の数分間の音質へのこの小さな拘りは、電気代を増加させ、製品の動作寿命を減すことになります。電源を入れてアイドル状態になると、アンプは約 20 ワットの電力を消費している事になります。

クリークでは、休日など長時間使用する予定がない場合は、リアパネルや壁ソケットのメインから、アンプをオフに切り替えることをお勧めします。高度な熱補償回路により、通常のパフォーマンスが迅速に達成されます。

リレーは Voyage i20 内の信号をルーティングおよびミュートするために使用されていて、動作時に小さな機械的なクリック音を生成します。これは正常であり、製品の誤動作を示すものではありません。

FIRMWARE - ファームウェア

ほとんどの現代の電子機器と同様に、デジタルマイクロコントローラはほぼすべての機能を管理するために使用されます。このマイクロコントローラのプログラミングは、時間の経過とともにアップグレードする必要があります。リビジョン番号を表示するには、左手のコントロールノブを短く押します。左のつまみを回して「Display Info」を選択します。ノブを押して「About this unit」画面を選択します。ファームウェアバージョンは、ヒートシンクの温度°Cと一緒に表示されます。通常の動作モードに戻るには、音量調節ノブを押すか回転させます。クリークのウェブサイトですぐ入手可能な最新のファームウェアを確認してください。Voyage i20のDFUデバイスファームウェアアップデート機能は、ユーザーがUSBとインターネットを介してデバイスを更新することができます。

RADIO INTERFERENCE - 無線干渉

Voyage i20は通常の国内の運転条件で正常に働くように設計されている。ただし、携帯電話、光調機器、Wi-Fiモデムなどの無線送信機の近くに設置すると、その性能に悪い影響を及ぼす可能性があります。これは、Sequel mk4がインストールされ、LPディスクを使用する場合に特に顕著です。ターンテーブルに取り付けられたカートリッジには、内部にコイルがあり、無線受信機と同調回路のように機能します。Voyage i20または無線送信機の位置を変えると、状況が正常化されます。

TECHNICAL SPECIFICATIONS - 技術仕様

パワー出力@ 1% THD	120 W 8Ω, 両ch 240 W 4Ω, 両ch 480 W 2Ω, 両ch
パワー出力の公差	電圧の安定化により、主電源電圧や負荷に関係なく、インピーダンスに正比例した出力を提供
連続の出力供給電流	>10A (正弦波)
最大の出力供給電流	+/-26 A 0.5Ω100ms
THD	<0.002% - 20 Hz - 20 kHz @ 2/3パワー出力 8Ω
SN	102dBA ライン入力L
周波数特性	1Hz - 100 kHz, +/-2dB
パワーアンプ利得	33.4dB (x 47) アンバランス
プリアンプアナログ利得	0 dB (x1) デフォルト
オプションの利得とパイパス	3dB, 6dB, 9dB, 12dB (インプット1 - 4に設定)
入力感度	659mV - 120W, 8Ω, 0dB/プリアンプ利得
クロストーク	>80dB - 1 kHz
DCオフセット	< +/-5mV
プリアンプ入力	4 x RCA (アンバランス), 1 x XLR (バランス)
プリアンプ出力	1 x RCA (アンバランス) バッファ処理
プリアンプ出力インピーダンス	100 Ω
プラグインフォノオプション	Input 1にSequel mk4 MM フォノアンプを増設
デジタル入力	2 x SPDIF 同軸 - (192 kHz, 24-bit) 2 x TOSLINK 光 - (192 kHz, 24-bit)
USB class 2 オーディオ	PCM - 384 kHz, 32-bit. DSD 64 & 128 ブルーーツルース - aptX HD

DACパフォーマンス	PCM 768 kHz, 32-bit, DSD 22.4MHz
IR バス入力	延長用外部 IR センサーを接続
IR バス出力	Voyage CDとのリンクが可能
スピーカー出力	4mmバインディングポスト、スピードプラグにも対応
スピーカー出力	<0.02 Ω 20Hz - 20 kHz (ダンピングファクター >400)
ヘッドフォン出力ソケット	6.3mm ステレオジャックソケット
ヘッドフォン出力インピーダンス	<22 Ohms, suitable for headphone 12 – 600 Ohms
主電源電圧	230V 仕様. 動作範囲 170V - 265V AC - 50Hz 115V 仕様. 動作範囲 85V - 140V AC - 60Hz 230V ないし115Vを工場出荷時に設定(後日の変更は不可)
主電源ヒューズの規格	T10AL 250V - 5 x 20mmガラス管ヒューズ 10 A 250V, タイムラグ
グラウンドの接続	Line 1 / フォノ横のグラウンディングポスト
グラウンドの設定	シャーシ底面横の二方向スイッチで切換
仕上げの色	フロントをシルバーないしブラックを選択、カバーの仕上げはブラック
消費電力	アイドリング, 最大, スタンバイ: <20 W, 600 W, 0.5W
オートスタンバイ	信号が30分止まると、アンプのスイッチが切れます
オートスタンバイメニュー	Menuでステータスとオプションを設定
電源ヒューズの規格	T10AL 250V = 10 A, タイムラグ, 250V 耐圧, 5 x20mm
重量	9 kg (本体) 11.5 kg (外箱込)
サイズ (W/H/D)	43 x 8 x 35 cm (足,ツマミ,端子を含)
注意	屋外での使用または水の近くでは使用しないでください。 すべての安全警告に注意してください

TERMINOLOGY - 専門用語

アンバランス*とは、2本の導体(ケーブル)を通過した信号全体を意味します。信号は中央導体を通り抜け、編組外シールドワイヤーを介して地面に戻されます。アンバランス*は、国内のオーディオ機器のための通常の接続方法であり、通常、RCA、フォノまたはチンチプラグまたはソケットを使用しています。

バランス* は、信号が2つのフェーズ(正と負)に分割され、信号または電流を運ばずに追加の接地シールドを備えた2つの別々のワイヤーを通過する意味です。これは、干渉やノイズを排除するために、専門またはセミプロのシステムでの通常の接続方法です

デシベルから電圧ゲインへの変換:

0dB = x 1. +3dB = x 1.4. +6dB = x 2.0. +9dB = x 2.8. +12dB = x 4.0.

AFTERSALES SERVICE – 販売後のサービス

Voyage i20 は長年にわたり信頼して使用出来るように設計されています。より多くのサポートが必要な場合は、常に専門家の助けを求めて商品を販売店に戻すことをお勧めします。Voyage i20 でサービス作業を行う必要がある場合は、可能であれば元の梱包材で販売店に返却する必要があります。

クリークオーディオは、警告なしに、その製品の仕様を変更または変更する権利を留保します。

WARRANTY - 保証

購入日から2年以内に、あなたのVoyage i20は事故、誤用、無視、不正な改造の調整、または公正な消耗、クリークオーディオ以外の理由で欠陥があることが判明した場合。その裁量で、英国内の作業または往復運搬のために無償で欠陥のある部品を交換します。

この保証は英国でのみ有効で、法的権利に加えて付与されます。英国外のサービスに関するお問い合わせは、まず販売店またはクリークの販売代理/輸入業者に対応する必要があります。輸入販売代理店のリストについては、次のサイトwww.creekaudio.com/distributorsをご覧ください。

英国外の国で付与される保証は、輸入者/流通業者の裁量または商法に準拠しています。